

# 全国ユース 環境ネットワーク

## 第3回 全国ユース環境活動 発表大会

2018年2月4日（日）

主催：全国ユース環境活動発表大会 実行委員会  
環境省  
独立行政法人環境再生保全機構  
国連大学 サステナビリティ高等研究所

協賛：キリン株式会社  
協栄産業株式会社  
SGホールディングス株式会社  
三井住友海上火災保険株式会社



# 第3回 全国ユース環境活動発表大会

2018年2月3日、4日の2日間、東京・渋谷区にある国連大学で、  
「第3回 全国ユース環境活動発表大会」が開催されました。  
表彰式には、笹川博義環境大臣政務官が出席し、あいさつをされました。

## ご挨拶

環境大臣政務官  
笹川 博義



本日は全国から大勢のご参加、誠にありがとうございます。審査委員の皆様におかれましては、長時間の審査、心より御礼申し上げます。

皆様、素晴らしい発表をありがとうございました。どれも甲乙つけがたい、本当に素晴らしい発表であり、審査委員の皆様も大変ご苦労されたのだと思います。活動を行った生徒の皆様と、生徒を見守って活動を支えていただいた先生方に敬意を表します。

活動を行うにはまず動機や目標があり、その達成のためには様々な課題が生じます。ここにおられる皆様はそれを乗り越えるために様々な努力や工夫を行ったかと思えます。人生においては、その努力や工夫を行う過程が最も大きな財産となります。

環境問題へのアプローチは、とても地道な活動が要求される上、こつこつと継続することが最も重要です。地方創生が叫ばれる昨今、皆様は地域の財産です。皆様の活動を、ぜひ後輩たちにも受け継いで、気持ちをつないでいってください。

皆様が地球環境に貢献できる一番身近な活動は、好き嫌いを言わずに出されたものを食べることです。好き嫌いをするとそれはそれだけ食品残渣が発生するという事です。皆様は勉強やスポーツに全力を出していかなければいけません。そのためにもエネルギーが必要です。地球環境に貢献するとともに、自分たちのためにも、ぜひ好き嫌いを言わずに出されたものを残さず食べてください。

最後になりますが、皆様のより一層の活躍を祈念し、私の御挨拶とさせていただきます。

## 第3回 全国ユース環境活動発表大会 表彰式

上段) 贈賞名  
中段) 受賞高校・大学  
下段) 贈呈者



環境大臣賞(高校)  
岩手県立遠野緑峰高等学校  
笹川博義環境大臣政務官



環境大臣賞(大学)  
大阪大学環境サークルGECS  
笹川博義環境大臣政務官



環境再生保全機構理事長賞(高校)  
愛知県立佐屋高等学校  
福井光彦環境再生保全機構理事長



環境再生保全機構理事長賞(大学)  
一橋大学国立あかるくらぶ  
福井光彦環境再生保全機構理事長



国連大学サステナビリティ高等研究所所長賞  
和歌山県立田辺高等学校  
渡辺 綱男 国連大学サステナビリティ高等研究所  
シニアプログラムコーディネーター



高校生が選ぶ特別賞  
徳島県立徳島商業高等学校  
中井徳太郎環境省総合環境政策統括官



先生が選ぶ特別賞  
群馬県立利根実業高等学校  
中井徳太郎環境省総合環境政策統括官

1日目は「全国ユース環境フォーラム」、2日目は「全国ユース環境活動発表大会」が行われました。全国から12高校、2大学が参加。環境大臣賞をはじめ出場高校・大学すべてに贈賞が行われました。次世代を担うユースが、熱心に発表し、そして交流した2日間でした。

<概要>

- 日程** 2018年2月3日(土)、4日(日)
- 会場** 国連大学 ウ・タント国際会議場
- 主催** 全国ユース環境活動発表大会実行委員会  
環境省／独立行政法人環境再生保全機構／国連大学サステナビリティ高等研究所
- 協力** 環境省地方環境パートナーシップオフィス(EPO)／地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)  
ESD活動支援センター／全国大学生環境活動コンテスト実行委員会
- 協賛** キリン株式会社／協栄産業株式会社／SGホールディングス株式会社／三井住友海上火災保険株式会社

KIRIN

KYOEI

SGH

MS&AD

三井住友海上

<高校生> 環境活動発表大会の発表・表彰高校は全部で12高校

## 受賞校のみなさん、おめでとうございます!

日本全国からたくさんの高校が応募をし、全国8ヶ所の地区審査で優秀な環境活動を実践してきた事が認められて選ばれた代表校12高校が堂々と発表をし、そして表彰されました。

### 環境大臣賞

副賞: 海外交流体験プログラム

#### 岩手県立遠野緑峰高等学校

##### 草花研究班

**ホップ和紙開発プロジェクト ～ホップ蔓の新たな可能性にかける～**

遠野市は、全国屈指の生産量・生産面積を誇るホップの一大産地。廃棄されるホップの蔓から繊維を抽出し、環境に優しい化学薬品ゼロなホップ和紙の工程や技術を向上させる研究を継続した。つくられた漂白剤を使わないのに真っ白な和紙は、「遠野物語」をイメージしたランブシェードや、地元小学校の卒業証書に使われている。活動の普及も広く行われており、キリン株式会社の社員研修受入やGWに紙すき体験工房を開催している。



### 環境再生保全機構 理事長賞

副賞: 国内環境研修プログラム

#### 愛知県立佐屋高等学校

##### 羽ばたけコールダック農法研修班

**「世界最小のアヒル(コールダック)が地球を救う!**

これまで行ってきた環境保全型農法のひとつであるアヒル農法は、成鳥すると大きすぎて田んぼに放せず、またコストもかかることが課題であった。そこで、動物園や野鳥園を訪ね見つけ出した世界最小のアヒル(コールダック)を活用することにした。この農法によりつくられた米や、その米糠を使用した保湿クリームやボディソープを、地元のコンビニエンスストアで店頭販売し、活動の普及を行った。今後は、米だけでなく他の農産物でもコールダック農法の付加価値をつけた6次産業化に注力していく。



### 国連大学サステナビリティ高等研究所 所長賞

副賞: 国内環境研修プログラム

#### 和歌山県立田辺高等学校

##### 田辺高校生物部

**鳥の巣半島の生物多様性を守ろう**

鳥の巣半島の豊かな生物多様性を守るため、外来生物のアフリカツメガエルの駆除を行っている。水を抜いたあと、目視できるアフリカツメガエルは駆除できるが、泥に潜っている個体の駆除ができず、その個体がまた繁殖してしまうという課題があった。そこで、水を抜いた後、細かい網を沈めることで、カエルが空気を吸いに上がってこれないようにした。それにより、成体の数で約5,600個体、オタマジャクシをいれと約7,000個体以上の駆除に成功した。しかしながら、まだ全個体の駆除は達成できておらず、今後は自治体とも協力し、罠の設置や計画的な駆除に取り組んでいく。



# 第3回 全国ユース環境活動発表大会

## 高校生が選ぶ特別賞

### 徳島県立徳島商業高等学校 ビジネス研究部

#### カンボジアの食の安全を守ろう! 希望の工場建設プロジェクト

カンボジアの食の安全や環境衛生改善を目標に活動を行う中で、カンボジアは環境や衛生に対する意識が低く、商品の製造を委託できる工場がないという問題点に気づいた。そこで私たちは、現地高校生とアイスクリームなどの商品開発を行いながら、HACCP準拠の加工工場を立ち上げた。活動をとおして「ゴミはゴミ箱に!」という環境意識も伝えて、意識の変革にも着手した。



## 先生が選ぶ特別賞

### 群馬県立利根実業高等学校 生物資源部 (イノシシ)

#### イノシシ侵入防護研究と地域への普及活動

イノシシの圃場への侵入防護研究をしている。これまで、イノシシは青色以外を認識できないことを利用して、農業廃材のポットを利用した侵入防護柵を製作し、イノシシの侵入被害を防いできた。しかし、「昼間は認識できて、夜間では認識できないのではないか」との疑問を感じ、イルミネーション用青色LEDライトと園芸用青色ポットを組み合わせた侵入防護柵実験を行ったところ、夜間でもイノシシの侵入防護が可能となった。



### 北海道士幌高等学校 環境専攻班



優秀賞

#### 士幌の原植生 カシワ林を後世に伝えるために

貴重な士幌のカシワ林を保全することを目的として活動している。生物多様性に関する調査や各種イベントや会議での啓発活動を通じて、以前と比べより稀少になっているカシワ林への、地元の認識変容を目指す。



### 青森県立名久井農業高等学校 TEAM FLORA PHOTONICS



優秀賞

#### 生物による水質浄化システム「バイオエンジン」の開発と普及

世界中で富栄養化による水質汚染が発生し、藻類が異常繁殖する環境問題。生物の力だけで浄化できるシステム「バイオエンジン」の開発に取り組んできた。現在、設置したバイオエンジンは100基以上になる。



### 千葉県立鎌ヶ谷西高等学校 鎌西1年2組



優秀賞

#### 地域を巻き込み! 「服のチカラ」プロジェクト

地域と協力し、株式会社ユニクロによる難民への衣類提供プロジェクトを通じて、全校生徒への意識付けを行う。行政や地元農家、各地の幼稚園、学校などと協働することで、難民への子供服寄贈が3,200枚以上となり、また本校生徒のボランティア活動への参加が、昨年度の約3倍となった。



### 富山県立中央農業高等学校 小動物研究班



優秀賞

#### とってもかわいい獣害対策 ～地域の環境保全をめざして～

過疎化の影響で獣害や耕作放棄地が増加している富山市神通峡地域で、サルを追い払うモンキードッグや人工飼料を与えず耕作放棄地の雑草を食料とするヤギを活用した環境保全に取り組む。本活動を基に、さらに地域での獣害対策をネットワーク化する。



### 奈良県立御所実業高等学校 「生物多様性の保全」研究班



優秀賞

#### 生物多様性ならプロジェクト ～田んぼの水族館～

①「田んぼの生き物観察応援隊」として生き物観察会や「田んぼの水族館」で豊かな生物多様性を発信②学校周辺の複数の用水路で魚類相の調査③絶滅危惧種であるナガオカモノアラガイの保護やこれらの情報発信にも注力した。



### 山陽女子中学校・高等学校 地歴部



優秀賞

#### 瀬戸内海の島嶼部の海洋ごみ問題に目を向けて

閉鎖性海域である瀬戸内海にある手島を拠点に漂着ごみの調査、回収、処分を実施し、漂着ごみの起点と思われる島外に向けても情報発信を行っている。廃棄物の問題だけでなく、影響を受ける側にも立って問題解決にあたっている。



### 佐賀県立佐賀商業高等学校 さが学美舎



優秀賞

#### SAGA 藻わたしたちの未来

植物の数十倍のスピードで光合成をする藻類に着目し、その可能性を進展させ、同時に普及啓発することで持続可能な循環型低炭素社会の実現を目指している。



## ◇大会風景◇ ～高校生・先生が選ぶ特別賞 投票の様子～



### <特別賞プレゼンター>



**中井 徳太郎**  
環境省総合環境政策統括官

### <審査委員> (敬称略、委員は50音順)



審査委員長  
**小澤 紀美子**  
東京学芸大学名誉教授

<審査委員長 講評>  
高校生らしく、地域の知恵や力を引き寄せ、課題に対し多角的なアプローチで解決しようとする姿勢を見せていただきました。持続可能な社会に向けての希望が見えました。



審査委員  
**熊谷 睦**  
協栄産業株式会社 社長室  
環境経営グループリーダー



審査委員  
**佐藤 隆史**  
環境省大臣官房  
環境経済課民間活動支援室長



審査委員  
**福井 光彦**  
独立行政法人環境再生保全機構  
理事長



審査委員  
**渡辺 綱男**  
国連大学サステイナビリティ高等研究所  
シニアプログラムコーディネーター

## 大学生表彰 (全国大学生環境活動コンテスト2017受賞2団体)

### 第15回 全国大学生環境活動コンテスト

主催：全国大学生環境活動コンテスト実行委員会

共催：独立行政法人国立青少年教育振興機構

独立行政法人環境再生保全機構

特定非営利活動法人エコ・リーグ

協賛：公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団／

3R活動推進フォーラム／株式会社クボタ

J-POWER 電源開発株式会社／

びんリユースを推進する会／株式会社レノバ／

ワタミファーム & エナジー株式会社

物品協賛：協栄産業株式会社／株式会社大王製作所／

株式会社山櫻

後援：環境省／文部科学省／読売新聞社／

全国大学生生活協同組合連合会

協力：株式会社ダイナックス都市環境研究所

**ecocon**  
全国大学生環境活動コンテスト



## 第15回 全国大学生環境活動コンテストが開催されました

「全国大学生環境活動コンテスト(ecocon)」は、環境に関心のある全国の大学生が1年に1度集まり発表・交流・学習を行うイベントで、企業、行政、学識経験者、環境団体などの社会人の選考委員を交え、1年間実施した活動の振り返り、評価を行うコンテストです。平成29年12月27日、28日に、第15回 全国大学生環境活動コンテスト(ecocon2017)が、開催され、全国各地から25の学生環境団体が参加し、2日間で延べ約450人が参加しました。コンテスト以外にも、交流会、分科会などの環境に関わる様々なイベントを開催しました。2日間にわたるコンテストにおいて、全国の団体の中から今年度グランプリとなったのは大阪大学環境サークルGECS、準グランプリは国立あかるくらぶの皆さんでした。

グランプリ：環境大臣賞

準グランプリ：独立行政法人環境再生保全機構 理事長賞

### おおさかだいがくかんきょう ゲックス 大阪大学環境サークルGECS

#### 広めよう! 楽しい環境活動

大阪大学環境サークルGECSは、大学生100人以上で構成されている大阪大学公認の環境サークルです。「環境問題に関心が薄い人に環境活動に対し興味を持ってもらうきっかけ作り」をテーマに活動を実施しています。

環境教育、ごみ拾い、景観保全、リユースなど、多岐にわたる活動を展開しており、地域の人々が気軽に楽しく環境問題に取り組めるような面白いアイデアを盛り込んだ企画を多数実施しています。自身の団体だけでなく、行政やNPO、地域の小学校など多様なセクターと連携を行い、幅広く活動を展開しています。

今年度は「環境×RPG」、「地球温暖化をテーマとしたリアル脱出ゲーム」など、小学生を対象とした企画を実施し、「環境問題に関心が薄い人に環境活動に対し興味を持ってもらうきっかけ作り」をすること目的に、地域の小学生に気軽に楽しみながら環境問題を知る機会を提供しました。地域の方々にもっと気軽に、もっと楽しく環境活動ができるということを知っていただくために、楽しさと環境問題への関心をもってもらうことを重視したイベントを設け、地域の方々と一緒に活動が続けます。



### くにたち 国立あかるくらぶ

#### 国立市を日本一きれいな街に

国立あかるくらぶは大学生30名程度で構成された一橋大学の公認サークルです。国立市内の環境、防災、まちづくりを3つの分野を軸に、「国立を日本一きれいな街にする」ことを目標に活動を行っている団体です。

上記の目標達成のためにポイ捨てされたごみが全くない街の実現を目指し、市内の散乱ごみの分布や種類の調査の実施、およびごみのポイ捨ての問題意識の普及啓発を中心とした活動を実施しています。特に「楽しいごみ拾い活動」の実施に力を入れており、国立市役所と共催で「ごみ拾いチャンピオンシップin大学通り」を実施したり、「東海道ゴミ拾い駅伝」へ出場したりするなど、ポイ捨てごみ問題をより身近な問題と感じてもらうための活動を実施しています。

イベントの実施以外にも、設立以来実施している週2回のごみ拾い活動を通した地域の方々との交流や、地元の中学生などの若年層に向けたポイ捨てに関する啓発活動を実施し、市内の学生だからこそできる地域への貢献活動を実施しています。



【2018開催概要】

## 第16回 全国大学生環境活動コンテスト実行委員会 (ecocon 2018)の開催が決定しました!

日時 平成30年12月23日(日)、24日(月・祝)

場所 国立オリンピック記念青少年総合センター

募集などの詳細は、今後ホームページに掲載します。

<お問合せ> 東京都港区西新橋 2-11-5 TTK西新橋ビル 3F

(株)ダイナックス都市環境研究所内

TEL : 03-3580-8284 FAX : 03-3580-8265

Mail : support@ecocon.info URL : http://www.ecocon.info/

# <第3回 全国ユース環境活動発表大会> 応募高校一覧

## 2017年度 全国の高校生の環境活動

今年も、全国の高校生が熱心に取り組んでいる環境活動の情報がたくさん集まりました。ご紹介いたします。

今後の活動の参考に、また高校同士での情報交換や交流の一助としてご活用ください。

全国ユース環境ネットワーク事務局



掲載例) 上段: 高校名  
中段: 団体名  
下段: 活動名

「全国ユース環境活動発表大会」の地区別の都道府県は、環境省地方環境事務所の所管する都道府県別で区分しています。

<p><b>北海道</b></p> <p>7 団体</p>	<p><b>秋田県立金足農業高等学校</b> 科学部 私たちは高校生の養蜂家 ～二ホンミツバチで秋田の環境を守る～</p>	<p><b>関東</b></p> <p>17 団体</p>	<p><b>慶應義塾湘南藤沢中・高等</b> <b>有志団体 環境プロジェクト</b> 羽ばたけ! 未来の希望を広げるeco出前授業</p>
<p><b>北海道函館水産高等学校</b> 北のくにづくり2017 食品製造実習室のアルコール 環境変化と細菌の耐性に関する研究</p>	<p><b>仙台高等専門学校</b> 仙台高専Aチーム 外来種が救世主!? ～アレロパシーの可能性～</p>	<p><b>作新学院高等学校</b> チーム・テレサ ペットボトルキャップで 地球の未来を守る</p>	<p><b>神奈川県立中央農業高等学校</b> 養鶏部 中農アイガモプロジェクト アイガモから広がる笑顔の輪</p>
<p><b>北海道標津高等学校</b> 自然環境類型 自然科学部 天然記念物標津湿原および周辺湿地環境の 保全活動・森林資源の有効活用と情報発信</p>	<p><b>仙台高等専門学校</b> 仙台高専Bチーム 石で水を浄化しよう ～岩石から光触媒を求めて～</p>	<p><b>栃木県立那須拓陽高等学校</b> 大山農場プロジェクト 「オシャラクブナの里」創造計画</p>	<p><b>静岡県立浜松城北工業高等学校</b> 環境部 ～「地球にやさしいエンジニア」を 目指して～</p>
<p><b>北海道士幌高等学校</b> 環境専攻班 士幌の原植生 カシワ林を後世に伝えるために</p>	<p><b>宮城県立利府高等学校</b> 利府環境放射線観測班 [ROGER] 環境放射線・紫外線観測を通じての大気の状態の 経時観測と地域との連携および告知の活動</p>	<p><b>群馬県立利根実業高等学校</b> 生物資源部 (イノシシ) イノシシ侵入防護研究と 地域への普及活動</p>	<p><b>加藤学園高等学校</b> 化学部 河川水の調査「モリブデン青法とリン の再結晶化」に関する研究</p>
<p><b>北海道旭川農業高等学校</b> 森林環境班 ササの有効利用 ～森林バイオマスとしてのササ資源の利用～</p>	<p><b>宮城県農業高等学校</b> 科学部復興プロジェクトチーム 被災地に笑顔の花を ～自然環境修復を目指すサクラ育成法Ⅲの開発と普及～</p>	<p><b>群馬県立利根実業高等学校</b> 生物資源部 (シカ) 二ホンジカのワイルドライフ・マネジメント 一調査・研究と情報発信一</p>	<p><b>オイスカ高等学校</b> 浜と松プロジェクト 防潮堤工事から遠州灘海岸の 再生に向けて</p>
<p><b>北海道帯広農業高等学校</b> 水質浄化班 地域の水を守る ～人工湿地による酪農雑排水の浄化～</p>	<p><b>宮城県志津川高等学校</b> 自然科学部 八幡川河口に復活した干潟の生物調査</p>	<p><b>群馬県立尾瀬高等学校</b> 理科部 尾瀬二ホンジカ調査</p>	<p><b>新潟県立佐渡総合高等学校</b> GIAHSプロジェクトチーム トキの島からジアスの島へ! ～持続可能な佐渡の農業を守るための地域連携活動～</p>
<p><b>北海道札幌旭丘高等学校</b> トンネウス沼班 トンボの多様性を守るために</p>	<p><b>宮城県気仙沼高等学校</b> 自然科学部 十八鳴浜の季節による変化の観察</p>	<p><b>千葉県立鎌ヶ谷西高等学校</b> 鎌西1年2組 地域を巻き込み! 「服のチカラ」プロジェクト</p>	<p><b>中部</b></p> <p>17 団体</p>
<p><b>北海道標茶高等学校</b> タンチョウトランスミッションプロジェクト タンチョウと地域の共生を目指して ～価値を見直し、田舎に誇りを～</p>	<p><b>宮城県多賀城高等学校</b> 科学部 多賀城高校の松枯れの原因を探る</p>	<p><b>東京都立大島海洋国際高等学校</b> Team Sustainable Aquatic Resources 海外と日本における水産資源管理の 認知度の違いについて</p>	<p><b>富山県立中央農業高等学校</b> 小動物研究班 とってもかわいい獣害対策 ～地域の環境保全をめざして～</p>
<p><b>東北</b></p> <p>15 団体</p>	<p><b>仙台市立仙台工業高等学校</b> 模型部 ペットボトルキャップを使った 分別を呼びかける活動</p>	<p><b>東京都立新宿山吹高等学校</b> ボルネオ保全学生グループ (SGBC) ボルネオ島の熱帯雨林への恩返し ～野生生物のために私たちができること～</p>	<p><b>石川県立津幡高等学校</b> 園芸部 伝統と文化を紡ぐ 養蚕復活プロジェクト</p>
<p><b>青森県立名久井農業高等学校</b> TEAM FLORA PHOTONICS 生物による水質浄化システム 「バイオエンジン」の開発と普及</p>	<p><b>山形県立酒田光陵高等学校</b> エネルギーで環境保全隊 再生可能エネルギーを利用して、 環境保全に全力でエネルギーを注ごう!</p>	<p><b>東京都立武蔵高等学校</b> 普通の高校生ズ SDGsは手に届く ～身近な活動から世界の視点へ～</p>	<p><b>石川県立七尾東雲高等学校</b> 能登ちゃべちゃべ隊 能登の里山から繋がる 地域との連携活動</p>
<p><b>青森県立柏木農業高等学校</b> Fly a way 世界遺産の森を広げよう ～次世代に引き継ぐ環境教育活動～</p>	<p><b>山形県立村山産業高等学校</b> 農業部ヒシモドキ研究班 水生植物ヒシモドキの無菌培養を 用いた保護・増殖活動</p>	<p><b>東京都立瑞穂農芸高等学校</b> 園芸部 サツマイモの空中栽培</p>	<p><b>長野県飯田 OIDE 長姫高等学校</b> コンピュータ制御部 地球を守り続ける高校戦隊</p>
<p><b>岩手県立遠野緑峰高等学校</b> 草花研究班 ホップ和紙開発プロジェクト ～ホップ蔓の新たな可能性にかける～</p>	<p><b>福島県立平工業高等学校</b> 生徒会 リサイクル活動でCO<sub>2</sub>を削減し、 地域貢献や国際貢献につなげる</p>	<p><b>お茶の水女子大学附属高等学校</b> 環境チーム 国産材を活用して日本の森を守る</p>	<p><b>長野県松本工業高等学校</b> 電子工学部 IoT 班 地域のインフラ維持問題における IoTの活用による持続的発展</p>

たくさんのご応募をいただき誠にありがとうございました。

**岐阜県立岐山高等学校**  
生物部  
カワナを通して考える地域の生態系

**岐阜県立岐阜工業高等学校**  
化学研究部  
いやな未来を消すけしゴム  
～笑顔の輪を広げる環境活動～

**岐阜県立不破高等学校**  
自然科学部 野生動物調査班  
目指せ!  
人とシカが共存できる里山づくりI

**名古屋市立名古屋商業高等学校**  
商品開発研究班  
葦から"ZOO" Beyond

**愛知県立南陽高等学校**  
Nanyo Company部  
COOL CHOICEで賢い選択  
～フェアトレード、カーボン・オフセットを活用した環境貢献活動～

**日本福祉大学付属高等学校**  
MANGROVE  
Seedlings with our hope for children  
～苗木という希望～

**愛知県立佐屋高等学校**  
羽ばたけコールドック農法研修班  
世界最小のアヒル(コールドック)が  
地球を救う!

**学校法人桜丘学園 桜丘高等学校**  
桜丘高等学校中高一貫コース  
朝倉川からフィリピンへ

**愛知県立愛知商業高等学校**  
ユネスコクラブ  
倫理的消費で共創する未来へ

**愛知県立時習館高等学校**  
SSH生物部  
三河湾の環境調査 part2

**愛知県立知立東高等学校**  
自然科学部  
猿渡川の環境と生きもののかかり

**愛知県立木曾川高等学校**  
総合実務部  
国の天然記念物「イタセンバラ」を地域の宝に!  
～広報活動と保護活動～

**近畿**  
17団体

**滋賀県立八日市南高等学校**  
花緑デザイン科 ランドスケープデザイン班  
猪子山  
～異年齢交流による里山保全活動の11年～

**京都府立木津高等学校**  
園芸部  
地域環境を見つめ続けたい

**京都府立桂高等学校**  
TAFS 地球を守る新技術の開発研究班  
下水から回収した有用資源MAP  
～持続可能な食料生産実現のための切り札!～

**大阪府立園芸高等学校**  
ビオトープ部  
トラップ法を持ちいたカシノナガキ  
クイムシの防除に関する研究と活動

**大阪府立長野北高等学校**  
科学同好会  
南河内ニホンシガメ  
分布調査地獄絵巻

**清風高等学校**  
ヘドロ  
栽培研究におけるヘドロの効果

**清風高等学校**  
里山研究会  
大阪府八尾市高安地域における  
地表性昆虫の環境指標としての可能性

**清風高等学校**  
アオコ研究班  
天然高分子によるアオコの凝集と  
肥料化の検討

**関西学院千里国際中部部・高等部**  
Neo イソギン  
イソギンチャクと褐虫藻を研究し、スーパー褐虫藻を  
見つけ、サンゴの白化現象を止めよう

**兵庫県立篠山東雲高等学校**  
AgLocal resources  
地域資源で循環型社会の構築!  
～農都篠山の 特産品を救え!～

**兵庫県立洲本実業高等学校**  
ソフトエネルギー研究ユニット  
技術でボランティア  
一東北ひかりプロジェクト

**兵庫県立加古川東高等学校**  
自然科学部 地学班 珪藻チーム  
珪藻土による水中のアンモニア除去

**兵庫県立香住高等学校**  
海洋科学科 アクアコース  
日本海漁業資源調査報告  
～日本海のひみつ! ヒレグロの正体に迫る～

**兵庫県立神戸商業高等学校**  
理科研究部  
西舞子海岸ほかでの漂着ゴミ回収

**神戸山手女子高等学校**  
(仮)カメラ部  
インガメ保全プロジェクト

**奈良県立御所実業高等学校**  
「生物多様性の保全」研究班  
生物多様性ならプロジェクト  
～田んぼの水族館～

**和歌山県立田辺高等学校**  
田辺高校生物部  
鳥の巣半島の生物多様性を守ろう

**中国**  
8団体

**出雲西高等学校**  
インターアクトクラブ  
出雲西高等学校インターアクトクラブの  
環境保全活動と国際活動について

**島根県立松江工業高等学校**  
環境を考える班  
廃材を利用してエコ活動

**岡山県立津山工業高等学校**  
工業化学科  
竹林再生プロジェクト  
～地域の特色を生かした循環型資源活用の取り組み～

**岡山県立邑久高等学校**  
自然環境グループ  
スクミリンゴガイの嗜好性を用いた  
効果的な駆除方法の開発

**山陽女子中学校・高等学校**  
地歴部  
瀬戸内海の島嶼部の  
海洋ごみ問題に目を向けて

**広島市立広島工業高等学校**  
グリーン・プロジェクト エコ・アクション・チーム  
ポジティブなエコシステムの実現

**広島県立世羅高等学校**  
世羅茶復活プロジェクト  
世羅茶復活プロジェクト  
～茶畑再生から里山景観保全を目指して～

**広島県立庄原実業高等学校**  
農村環境創生研究部  
田んぼアート2017

**四国**  
7団体

**徳島県立徳島商業高等学校**  
ビジネス研究部  
カンボジアの食の安全を守ろう!  
希望の工場建設プロジェクト

**徳島県立新野高等学校**  
緑のリサイクル・ソーシャル・エコ・プロジェクトチーム  
緑のリサイクルモデルから持続可能な  
資源循環型脱炭素社会への取組

**愛媛県立宇和島水産高等学校**  
水産増殖科  
ESDの観点による地域と連携・共創した  
環境保全活動

**愛媛県立上浮穴高等学校**  
上高クロモジ研究グループ  
林地残材で地域資源を活用した  
持続可能なまちづくり

**済美高等学校**  
里山 Girls  
農と生きものとの関係  
～生きものもご飯も田んぼの恵み～

**愛媛県立今治西高等学校**  
生物部  
高校生の環境調査を小中学生の  
環境教育に活かす取組

**高知県立伊野商業高等学校**  
和紙研究会  
土佐和紙の魅力を伝えよう!  
国際活動について

**九州・沖縄**  
12団体

**福岡県立糸島農業高等学校**  
根っこ部  
アブラナ科植物を  
根こぶ病から守りたい

**東筑紫学園高等学校**  
広谷湿原保全プロジェクト  
守ろう! 私たちの平尾台+広谷湿原!!  
ラムサール条約登録!!!

**大分県立玖珠美山高等学校**  
チーム flower's  
レンゲツツジの郷の復元をめざして  
～かつての賑わいを取り戻す活動を～

**佐賀県立佐賀商業高等学校**  
さが学美舎  
SAGA 藻わたしたちの未来

**長崎県立諫早農業高等学校**  
食品科学部  
長崎県離島の伝統文化の振興と  
世界遺産PRをめざした新商品開発

**熊本県立岱志高等学校**  
理科部  
荒尾干潟の生物多様性研究と  
アウトリーチ活動

**熊本県立天草拓心高等学校マリン校舎**  
科学部  
カヤノミカニモリの産卵と  
生活史の研究

**鹿児島県立錦江湾高等学校**  
化学研究部  
雨粒の大きさ・降雨量測定器  
(R System)の開発

**鹿児島県立薩南工業高等学校**  
機械工作部  
持続可能な社会のために  
私たちは何をすべきか

**鹿児島県立鶴翔高等学校**  
作物班  
水産廃棄物「ウニ」の有効活用  
～リサイクルで環境保全～

**沖縄県立中部農林高等学校**  
熱帯資源科 動物コース  
命の授業 ひまわりプロジェクト

**沖縄県立南部農林高等学校**  
科学部  
国場川・長堂川の河川調査IV  
～きれいで遊べる川にするために～

# 全国ユース環境フォーラム

## 全国ユース環境フォーラム キーワードは「インパクト」

全国ユース環境活動発表大会の初日は、国連大学のレセプションホールで、全国ユース環境フォーラムが開かれました。一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)代表理事の辰野まどか氏の進行で行われ、自分の活動を相手に伝え、相手の活動に耳を傾けることにより、最後は高校生の緊張も打ち解け、翌日の本番に向け、大変盛り上がりました。

**主催** 全国ユース環境ネットワーク事務局  
(環境省／独立行政法人環境再生保全機構／  
国連大学サステナビリティ高等研究所)

**運営** 一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)



冒頭 アイスブレイキング

### ゲストトーク

#### 【世界と起こすインパクト】

国連大学サステナビリティ高等研究所  
プログラムアソシエイト

丸山 鳴氏

丸山氏より、二日間の大会の舞台となる国連大学についての説明がありました。自分たちが翌日発表する舞台が、国連の会議で日本の首相もスピーチを行った場所であるということを知られ、高校生の緊張感も高まりました。

またSDGsに関する映像を観て、自分たちが地道に行っている活動がこの大きなゴールに繋がり、世界の若者と共に大きなインパクトを起こしているというメッセージを受け取りました。



丸山 鳴氏

### 基調講演

#### 【第一次産業と起こすインパクト】

株式会社みやじ豚 代表取締役社長  
特定非営利活動法人農家のこせがれネットワーク代表理事

宮治 勇輔氏

宮治さんが退職し実家の養豚業を継ぐ決意をしたとき、ご両親からは反対されたそうです。そのたびに、一次産業を、かっこよくて、感動があって、稼げる3K産業に！というビジョンを繰り返し説明することで、説得に成功しました。当時から、一次産業で日本を改革することを考えていた宮治さん。想いを口にし、周りに発信することはとても大事だと言います。

よく「将来の夢は〇〇になること」という言葉を耳にしますが、夢は職業とイコールではないとも言います。自分は養豚業者という職業ではありますが、夢はあくまで一次産業を3K産業にすること。そのためにはみやじ豚を一つのモデルとして、一次産業従事者のネットワークにも取り組み、そのネットワークが拡大していくことで一次産業の正のサイクルをつくっていきます。



宮治 勇輔氏



# ワークショップ【自分たちの活動から生まれるインパクト】

ゲストトークや基調講演を経て、あらためて高校生たちは自分たちの活動を見つめ直しました。翌日はチームとして自分たちの活動を発表しますが、この日は違う学校の生徒に、一人で自分たちの活動を説明しました。地域や課題は違いますが、同じように環境活動に取り組む同世代の仲間たちと話すこの機会に、初めのうちは緊張していた高校生たちも、最後は自分たちの活動について自信を持って話し、また相手の活動にも耳を傾け、たたえ合っていた姿が印象的でした。



ファシリテーター

一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト (GiFT)  
代表理事

辰野まどか氏



## 高校生の感想

- 卒業しても地域に貢献していきたい。
- たくさんの人と交流する中で自分たちの研究を改めて考えさせられることがあっていい経験になった。
- 自分が行っている研究を発表しあうことにより、興味を持つことができたり、いろいろな視点で考えることができた。
- 考え方、環境に対しての見方、そして今問題視しているものが違い、良い経験になったとともに、新しい見方や知識が身についた。
- 思った以上に自分たちの活動に興味を持ってくださり、他の高校の方と活動を話し合うことが少ないので、良い経験になった。
- いろんな考えや意見を持った人たちがたくさん集まって話すことができたので、自分の考えにプラスすることができた。
- 各グループごとの話し合いで誰も知り合いがない中話せるのかすごく不安だったが自分の意見も言え、最後には緊張も取れるくらいの雰囲気になった。



フォーラム終了後 記念撮影

# <環境省>キャリア形成支援プログラム

日本全国8地区の高校生が集まった!

『環境省 キャリア形成支援プログラム』が開催されました!

2018年1月、環境省は高校生が環境事業を実践している企業を訪問し、将来の「キャリア形成」の参考になる研修プログラムを実施しました。

日頃から環境活動に励んでいる全国の高校生が、石坂産業株式会社(埼玉県)を訪問。視察を通してその広大な施設で行われている様々な取り組みを肌で感じ、社長の講話やワークショップでは各々の将来やこれからの環境活動について考える2日間を過ごしました。その様子をご紹介します。

**日 程:** 2018年1月13日(土)~14日(日)

**訪問先:** 石坂産業株式会社(埼玉県入間郡)

**参加者:** 8高校 高校生22名



全員で記念撮影

## プログラム 1日目

### 私たちの仕事は社会を支える根っこの大切な仕事です。

#### ■到着~オリエンテーション

北は北海道、南は鹿児島から集結した高校生。1日目の会場に到着し、最初は緊張した雰囲気でしたが、オリエンテーションや自然の体験クイズなどを通して硬さがほぐれていきました。

#### ■会社説明~施設見学

石坂産業株式会社の事業と取り組みについての説明の後、広大な施設を見学。工場内で様々な工夫が隔々まで施されている産業廃棄物処理の現場を視察。そのあと市民からも親しまれている工場敷地内の里山を歩いてまわりました。隔々まで行き届いた環境への配慮からは石坂産業の社員が誇りを持って働いていることが伺え、「ここで働きたい!」という高校生の声も聞こえてきました。

#### ■石坂典子社長による環境研修~1日目終了

社長研修では、心に深く響く数々の話がありました。「誰もしたがない産業廃棄物処理の仕事だけれど、それは社会を支える根っこの大切な仕事です。」「みんなの家も、壊されると産業廃棄物になるって考えたことありますか?モノを作るといことは、(未来の)ゴミをやることでもあるのです。」「モノを買うときは、それが最後にどう処理されるか、地球環境にダメージを与えない処理をされるのかまで考えることも大切なことなのです。」石坂社長の人生のストーリーと熱い想いがメンバーの心に迫ってきて、一気にワクワクしたエネルギーに包まれた会場。産業廃棄物処理業とはどういう仕事なのか、環境とどう向き合うのかを各々が深く考えさせられる時間となり、この日のプログラムは終了しました。



石坂産業 石坂典子社長



施設内での里山研修

## プログラム 2日目

#### ■交流プラザでの研修

2日目の会場は施設内の交流プラザ。昔ながらの宮造り工法で建てられた、木の香りのする建物です。かつての養蜂農家の建物を修復して今の形になったとのこと。歴史のある会場で研修に臨みました。

#### ■前日の振り返り、写真を用いたワークショップ

1日目の施設見学中に各自が撮影した写真全ての中から、「最も石坂産業らしさを表した1枚」を選ぶワークを行いました。グループで選んだベストショットとその理由をお互いに発表し合い、環境保全や自分の将来についての考えを深めていく高校生。笑い声と真剣な対話が混ざり合う、熱い雰囲気が場を包んでいました。会場を後にするのを惜しむ声も聞かれる中、プログラムは幕を閉じました。



交流プラザでの研修

## 参加高校生ご紹介

今回、『環境省 キャリア形成支援プログラム』の研修に参加したのは、「第3回全国ユース環境活動発表大会」に応募をして、惜しくも全国大会に出場できなかった高校生。北海道から九州・沖縄地区まで全国8地区より選ばれた、日頃から熱心に環境活動を実践しているみなさんです。

参加高校生が学んだこと(感想抜粋)をご紹介します。



高校生の発表の様子

### 北海道

#### 北海道標茶高等学校 タンチョウトランスミッションプロジェクト

**村山太一さん** 地域に愛される会社づくりは、これから僕たちが大人になったときに見習うべきものだと感じました。本校に出前授業をしてほしい。

**加藤 柁太さん** 社長さんの講話にとっても感動しました。考える視点の違い、行動力など、聞いたことを少しでも吸収しようと思ってお話を聞き取りました。

**藤田 菜央さん** 今回このような活動を通して、環境や自然に関わる仕事もすごく楽しそうだなと思いました。また行ける機会があれば行きたいです。

### 東北

#### 福島県立平工業高等学校 生徒会

**酒井 孝輔さん** 企業のしっかりと、また細かいところまで気を使った感じがすごいと思いました。

**内山 瑞葵さん** 産業廃棄物処理業に対するイメージが変わった。

**折原 恩映さん** 様々なものを見たり、体験できたりと自分の考えの範囲を広げることができ、参加してよかったと思いました。ありがとうございました。

### 関東

#### 東京都立瑞穂農芸高等学校 園芸部

**小寺 竜馬さん** 今回のプログラムに参加して、自分たちの出すゴミは勝手に回収される(なくなる)のではなく、誰かが回収して処理してくれていることを知りました。

**遠山 杏さん** 自分の背中をぐっと押されるような思いがしました。社長のお話で強く心を動かされ、根っここの仕事の“輝き”をたくさん教えていただけたと思っています。

**廣江 明美さん** ゴミにお金をかけたくないと思っていました。だけど、社長のお話や施設見学をして、会社の人に失礼だと思い、考え方を変えよう。

### 中部

#### 石川県立七尾東雲高等学校 能登ちゃべちゃべ隊

**村山 唯さん** 産業廃棄物処理のイメージが全く変わった。様々な地域の人たちと交流することも新しい視点でものを見ることができた。

**瀬口 海光さん** 人がやらない仕事をしっかりと社員の皆さんも自分の仕事を誇りに思っている。社長が言っていた木の根のような人になりたいと思いました。

**松江 諒哉さん** 普段考えたこともないことを学んで興味を持てた。木くずや瓦などを細かくして地面に敷いたりして細やかなところまで気を配っていてすごいと思った。

### 近畿

#### 兵庫県立神戸商業高等学校 理科研究部

**森光 春平さん** 処理場の周りに自然があるというのは今まで見たことがなかった。処理場の中の様子が見えるか見えないかで印象が変わることを学んだ。

**西上 一成さん** 産業廃棄物業が「リサイクル」をテーマにしているだけでなく、「未来につながる仕事」であり、いわば「ゴミとの闘い」を意味しているのではないかと感じた。

### 四国

#### 島根県立松江工業高等学校 環境を考える班

**小澤 興城さん** ゴミを出すときに、他の人が処理してくれていることに感謝しないといけないと思いました。来年も来てみたい。

**伊藤 豪さん** 石坂社長の話を聞いてゴミに対する気持ちが変わった。自分でももう少しごみを減らそうと思った。

### 四国

#### 済美高等学校 里山 Girls

**上野 さくらさん** この社会にはまだまだ知らないことがあるのだと感じました。実際に自分の目で見ることによって根っここの仕事に感謝しなければと思った。

**高橋 奈瑚さん** 工場見学をしたり社長さんのお話を聞く中で、産廃処理業があることや社員の人がいることの大切さを感じることができました。

### 九州・沖縄

#### 鹿児島県立薩南工業高等学校 機械工作部

**松元 敦哉さん** 今回のプログラムを通して、私は、今後も環境のことを常に意識しつつ配慮や改善に努めていきたいと思いました。

**松元 風喜さん** 仕事にどんな意味があるのか日々、先々のことを考え行動できるよう改めて活動、生活していきたい。

## 石坂産業株式会社ご紹介

# 自然と美しく生きる。

商号 石坂産業株式会社 代表者 代表取締役 石坂典子  
主な事業 産業廃棄物中間処理業(再生事業者登録有)  
本社・工場 〒354-0045 埼玉県入間郡三芳町上富緑1589-2

HP見てね! <https://ishizaka-group.co.jp/>



石坂社長を囲んで記念撮影

## 『四国地区 大学生環境研修』

「SDGs」=持続可能な開発目標

**主催** 全国ユース環境ネットワーク事務局  
(独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金)  
**共催** 全国大学生環境活動コンテスト実行委員会  
**協力** 環境省 四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO)  
四国地方ESD活動支援センター(四国ESDセンター)



2017年12月、四国地区で「持続可能な開発目標(SDGs)」の活動に取り組む大学生たちが香川県高松市に集まりました。持続可能な社会を作り出すことを目的としている大学生でも、その活動内容は多様で、様々な活動がSDGsとどのようにつながっているか、また、四国の大学生としてどのようにSDGsと関わられるかを、社会人からの講演や学生同士での意見交換を通じて理解を深めました。当日の様様をレポートします。

### 基調講演

## 『トンネルコンポスト方式 ～可燃ごみの再資源化とSDGs～』

**鎌倉 秀行** 株式会社エコマスター  
BTマスター(センター長)

株式会社エコマスターは、香川県三豊市にある「バイオマス資源化センターみとよ」の運営をしており、そこで「トンネルコンポスト」というごみ処理方法を、日本で初めて実施しています。トンネルコンポストは本来であれば燃やすだけの生ごみや草木、ビニールなどの可燃ごみを、微生物を用いて発酵乾燥させて固形燃料に加工することで再資源化する手法であり、生産された固形燃料は石炭の代替品として利用されています。この取組は資源の有効利用につながるだけでなく、二酸化炭素の排出の削減にも大きく貢献しています。この二酸化炭素の排出抑制の取組が評価され、環境省からも2カ年に渡り施設整備に関する補助をいただくことができました。廃棄物処理はSDGsの17のゴールとも密接な関係にあり、12.2、12.5のターゲットの中にも「循環型社会の構築」について触れられています。トンネルコンポストによる固形燃料生産事業も、限りある資源の有効活用、石炭に代わる燃料の製造、二酸化炭素排出抑制など、SDGsの17のゴールに大きく関わる取組です。環境に与える負荷を軽減し、持続可能な未来を構築すべく、この取組を続けたいと思います。



### 事例紹介

## 『SDGsの内容および、四国における取組事例紹介』

**亀山 公実子** 環境省四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO)  
コーディネーター

SDGsは国連で採択された世界的な目標ですが、私達の先の世代も安心して暮らしていくための「持続可能な社会づくり」を地域で実現するための目標でもあり、企業や行政、学校、NPO、様々な人が、様々な場所で持続可能な社会づくりにつながる取組を実施しています。四国でも、地域特産の規格外農作物を材料としたお菓子を製造・販売する企業や安心で安全なオーガニックコットンのタオル生地をグリーン電力のみで製造している企業、安全で新鮮な農作物を消費者に提供しているスーパーなど、多様な手法で、持続可能な社会の実現に向けた取組を実施しています。企業以外でも様々なところで取り組まれており、新たなものばかりではなく、既存の取組に「持続可能性」という観点を加えることで、別分野への展開や新たなパートナーとの協働などへと発展することもあります。SDGsの17の目標は一つ一つ独立していても見えますが、複数の項目は相互的な関係にあります。また、企業をはじめ、消費者である私たちの普段の生活や行動も、持続可能な社会づくりにつながっているため、SDGsは世界共通の重要なキーワードとなりつつあります。



## 当日の研修内容

研修には7団体13人の学生が参加し、概要研修や基調講演を経てSDGsへの学びを深めた後に、大学生同士による自身の活動とSDGsとの関連性についての意見交換を行いました。活発な意見交換の後で、当日の研修を踏まえた団体ごとのSDGs宣言を作成してもらいました。

当日研修に参加した大学生



## (特活)えひめグローバルネットワーク

乾 慈深さん(愛媛大学農学部 2年生) 辻本 泰地さん(愛媛大学農学部 2年生)

(特活)えひめグローバルネットワークは、「国際協力事業」「環境保全事業」「ESD事業」「ネットワーク事業」の4つの事業を柱として、持続可能な社会の実現に向けて、地域に根ざし、グローバルな視点を持ってさまざまな活動を展開しています。アフリカ、モザンビークでの公民館建設や武器アート、日本でのフェアトレード商品の販売、河川清掃、防災イベントの開催など幅広い活動を行っています。

### SDGs宣言

SDGsの17のゴールにのみとられず、目の前にある課題や問題の一つ一つ解決します。SDGsの目標に掲げられるような大きな目的・目標を目指すだけでなく、目の前にある自分達で解決できる課題に取り組むことで、後からその成果がSDGsの達成へとつながられるよう、しっかりと活動に取り組みたいと思います。



## 香川大学学生 esd プロジェクト「SteeP」

和田 正嗣さん(香川大学経済学部 2年生) 櫻井 美珠稀さん(香川大学経済学部 1年生)

香川県地球温暖化防止活動推進センターの方々と協力して「COOL CHOICE」の啓発運動などに取り組んでいます。「COOL CHOICE」の著名活動の実施や、ラジオの収録、徳島での四国の大学生との意見交換研修への参加、および食品ロスのイベントなどの活動を実施しています。

### SDGs宣言

SDGsの達成のため、SDGsの周知や実際に取り組んでいる人達との関係づくりにつとめます。環境活動に取り組んでいても、まだSDGsについて知らない人もいますので、自分達の環境活動を通じてSDGsについて認知を広め、SDGsの目標達成を目指したいと思います。また、目標を達成するために、様々な人達との関係性づくりに励みたいと思います。



## 高知県 子どもの環境づくり推進委員会子ども委員

平田 久留実さん(四国学院大学文学部 1年生)

環境系の合宿に参加したりイベントのお手伝いをしています。

### SDGs宣言

四国学院大学がある善通寺で、SDGsをテーマにしたカフェを作りたいと思いました。地産地消、フェアトレードの食材を用いた商品や、ごみを削減する調理法を使うほかにも、注文した商品がどのSDGsのゴールに関わっているかわかるメニューを作るなど、「まずはSDGsを知る」ことを目的とした空間を提供したいです。



## 高知工科大学(KUT)

伊藤 彰悟さん(高知工科大学システム工学部 3年生) 新屋 文隆さん(高知工科大学システム工学部 3年生)

自転車での人力発電を用いた出前授業、地域対象のタブレット教室や龍河洞キャンドルナイトへの参加など、大学で学んだ電気や機械の知識を活かし地域での活動を主に行っております。

### SDGs宣言

技術者の目線からのSDGs宣言として、環境に配慮した技術を選びたいと思います。エネルギー効率を上げるなど、技術者として環境に配慮した研究を行い、責任ある技術者として今後同じ研究に関わる技術者達にも、環境に配慮した技術を選ぶことを広めたいと思います。



## 高知大学人文社会科学部 高橋俊ゼミナール

富井 瑠香さん(高知大学人文社会科学部 2年生) 方 思佳さん(高知大学人文社会科学部 2年生)

高橋ゼミでは、とくに中国と日本の「文化の違い」を様々な角度から検討・議論しています。「文化の違い」を絶対的なものとして考えるのではなく、とはいえ「そんなものはない」と断言するのでもなく、その中間はどこにあるのだろう、というテーマで日々活動しています。

### SDGs宣言

国際的にSDGsの認知を広めたいと思います。私達の所属している国際社会コースでは国内の学生だけでなく、留学生も数多くいます。そのような海外の学生にもSDGsを認知してもらい、考え方や意識を変え、自国における環境問題についても考えてもらいたいと思います。



## 徳島県地球温暖化防止活動推進委員

場合 亮太さん(徳島文理大学総合政策学部 3年) 平岡 佑麻さん(四国大学生活科学部 2年生)

多くの人が集まる「阿波踊り」や「阿波の狸まつり」等のイベントで発生するごみの分別や、温暖化防止を呼びかけるアースパレードの企画・運営、環境出前講座の講師やボランティアなど、地球温暖化防止や環境保全活動の取組を行なっています。

### SDGs宣言

イベント時のごみ拾い活動はすでに行なっていますが、そのような多くの人が集まるイベントなどで、積極的にSDGsの啓発活動を実施したいと思います。活動を継続することで環境問題に関する知識が蓄積されるので、その知識を学生に対しても広めたいと思います。



## ふるさと愛好会

佐伯 歩美さん(徳島大学工学部 3年生) 佐野 みどりさん(徳島大学総合科学部 1年生)

徳島県内で「まちづくり」活動をしています。今年は農作業や古民家改修のサポート、コミュニティ作りのためのヒアリング調査などを行いました。防災や生態系保全、地球温暖化防止活動にも取り組んでいます。

### SDGs宣言

多くの人を巻き込んで、「ふるさと」を守る活動を続けたいと思います。パートナーシップで地域の課題を解決すべく、地域内外の人達と交流を重ねつつ、地域の人達と同じ目線に立ちながら、地域における課題の解決を行い持続可能な地域の達成を目指したいと思います。



## 『持続可能な開発目標(SDGs)実現のための企業の取組みを学ぶ』

**主催** 全国ユース環境ネットワーク事務局  
(独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金)  
**共催** キリン株式会社  
**協力** 株式会社クレアン、大阪大学環境サークルGECS  
**事務局** 特定非営利活動法人いけだエコスタッフ

2017年10月、環境活動を実践している2府4県の高校生や大学生が集い、「持続可能な社会」について研修を行いました。基調講演と事例研修では、SDGs達成のための企業の具体的な取組みを知ること、ユース世代として消費者としてできることを考える機会となりました。さらにワークショップでは、高校生と大学生が交流しながら意見交換を行い、多くの学びを得ることができました。近畿地区 高校生SDGsセミナーの様子をお伝えします。



### 企業研修

### KIRIN

## 飲み物一つで世界とつながっている。生産地から持続可能な取組みが必要

**藤原 啓一郎** キリン株式会社  
CSV 戦略部 シニアアドバイザー

飲料事業は生物資源と水資源などの自然に支えられた事業ですが、今どちらも地球温暖化で脅かされています。生物資源については、「持続可能な生物資源利用行動計画」を作り、取組みを進めています。その一つが当社の製品「午後の紅茶」の茶葉主要生産地スリランカの紅茶農園へのレインフォレスト・アライアンス認証取得支援です。この認証を取るには厳しい基準をクリアしなければなりません。そこで、農園や周辺の生態系保護、人権の観点から農園で働く人の労働環境の整備、安易な焼畑農業で森林伐採しないよう農業技術の指導も行っています。さらに、大量の容器包装を使う企業として、2020年末までに全ての紙容器を適切に管理された森林の木材から作られたFSC® 認証紙に切り替える目標を発表し取り組んでいます。1社では世界中の森林伐採問題は解決できないので、複数の企業が手を組んで活動しています。飲み物一つとっても紅茶葉、水、容器などで世界とつながっています。認証マークだけで商品を選ぶ人は少ないでしょう。しかし、消費者が生産地の努力を知り何ができるかを考えることは重要です。



### 基調講演

## SDGsを通して、「ええやん!」と思える未来をワクワクしながら思い描く

**藺田 綾子** 株式会社クレアン代表取締役、  
持続可能な目標開発(SDGs)ステークホルダーズ・ミーティングメンバー(環境省主催)

17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(SDGs)」は、未来を明るくするための共通言語です。SDGsの特徴の一つとして、「環境」「経済」「社会」がバランスよくインテグレートされていく「統合性」が挙げられますが、そのためにはNGOだけでなく、企業も主体的に取り組んでいく必要があります。企業の価値と社会の価値を共創することで、約1350兆円の経済的価値と3億8000万以上の雇用を生み出すことができるとされています。「環境・社会・企業統治」に配慮し、優れた経営をしている企業に投資する「ESG投資」が注目され、社会的信用を得るために企業が積極的にSDGsに取り組み始めました。「誰一人取り残されないハッピーな社会」を実現していくために、自分に何ができるか、企業をどう変えていけるか、私たちも声を挙げて行動していかなければなりません。その際に有効なのが、将来のあるべき未来の姿から現在を振り返るバックカスティングという発想です。そして、未来のことを考えるのは楽しい、「こんな未来やったらええやん!」とポジティブにワクワク発想することを大切にしてください。



### ワークショップ

## 「もしドラえもんが2030年の世界からきたら ～バックカスティングで創造する2030年の姿～」

ファシリテーター 藺田 綾子 グループファシリテーター 大阪大学環境サークル GECS

SDGsに取り組まなければ、私たちの未来の2030年はどうなってしまうかを考えるワークショップからスタート。「気候変動と人口増加で食料不足に陥る」「生態系が崩壊し、多くの動物が絶滅する」など、様々な問題が書き出されました。「今が0だとすると、2030年は何点になるか」と藺田さんからの問いに、全員がマイナス点に挙手。続いて、そのマイナスをプラスにするために、未来から考えるバックカスティングを体験しました。課題は、2030年からドラえもんがやって来て、SDGsを解決するために秘密の道具を何か一つ出してくれるとしたら何を出してもらうか。増えるミラーで食料不足を解消する、タイムふろしきで伐採した木を生き返らせるなどのアイデアが。「未来を考えるのは楽しいこと。できないと思ったら実現できない。2030年にハッピーな未来を作るのは私たちです。そのためにはミッションを持って、仲間を作り一歩ずつ進んでいきましょう」と藺田さん。



当日の研修内容

企業研修（講師＝キリン株式会社）と基調講演では、SDGs達成のための企業の具体的な取組みを知ることで、ユース世代として消費者としてできることを考える機会となりました。さらにワークショップでは、高校生と大学生が交流しながら意見交換を行い、多くの学びを得ることができました。研修の最後に、当日の学びから、「高校生SDGs宣言」を作り、発表しました。



研修風景

滋賀県立八日市南高等学校  
花緑デザイン科

辻 優哉さん(2年生) 寺田りのあさん(2年生) 中村 龍人さん(2年生)  
清水 亮希さん(2年生) 野澤 樹さん(3年生)

私たちが学ぶ農業や造園などの実習の知識や技術を生かして、地域の山や森などの自然環境を管理・保護することで、故郷の自然景観を未来に残します。

SDGs宣言

私たちの力で地域の自然を守り育て、地球の自然を守ります。



京都府立桂高等学校  
TAFS「地球を守る新技術の開発」班

寺田 晃盛さん(2年生) 橋本 拓さん(2年生) 山添 利格子さん(2年生)  
前川 三紗都さん(2年生) 山瀬 哲平さん(2年生)

肥料の三大要素のリンはリン鉱石が原料で、あと200年で枯かつかつという。また化学肥料の利用によって土壌中に多くのリンがたまっている。私たちの研究班ではこれらの問題を解決するために研究を行っている。この問題を解決する技術が開発できれば持続可能な農業を営むことができると考えている。

SDGs宣言

持続可能な農業を営むために学校でより多くのことを学び研究活動で生かし、新しい技術を開発する。



大阪府立園芸高等学校  
ビオトープ部

村上 悦崇さん(2年生) 宮田 剛さん(2年生)  
足立 光陽さん(1年生) 林朋 輝さん(1年生)

日本固有の魚類及び動植物が外来生物によって減っています。本来棲息しているはずでない生物が増え続けているのはあってはならないことです。これ以上外来生物を殖やさないやめにも私たちのできる限りでの最善を尽くし釣法での駆除で減らしていきたいと思えます。

SDGs宣言

ブルーギル・ブラックバスに関連している外来生物を軽減させます。



大阪府立平野高等学校  
環境科学コース

林 菜々さん(2年生) 勝部 沙紀さん(2年生) 遠山 春音さん(2年生)  
轟 こだまさん(2年生) 佐々木 俊二さん(2年生)

私たち平野高校環境科学コースでは環境について調査・研究・学習をしています。日本最大級の学校ビオトープを活用して農産物の栽培や水質調査などを行っています。今回のSDGSセミナーで私たちが学んだことは、日本は水が豊富なのに海外から大量に入れている、フードレスが世界でワースト1でたくさんの食料を捨てている、とても無駄が多いこと、そして日本が貧困な国になってしまったらと思うととてももったいないことをしている」という状況でした。企業の方々はすでにこういった問題に取り組んでいて、これらことを伝えていかなければならないと教えてくれました。これから環境について深く考えていき、SDGsなど様々な活動で学んだ環境問題はもちろん、生物多様性についてビオトープを通して交流している幼稚園や小学校に伝えていきたいです。

SDGs宣言 私たちは伝えます。



関西創価高等学校  
ISS EarthKAMプロジェクトチーム

山下 美奈子さん(3年生) 市場 亜友さん(3年生) 尾藤 美結さん(2年生) 鎌田 透佳さん(2年生)  
山部 蓮華さん(2年生) 若松 慶人さん(2年生) 竹田 勇紀さん(1年生) 永井 里夏さん(1年生)

SDGs宣言

一、私たちISS EarthKAM Project Teamは、自校生やオープンキャンパスの来校者等に対し、「バックカasting」の考えに基づいた環境意識の啓発を行います。  
一、具体的には、生徒や来校者に、地球の現状をもっと詳しく話していきます。またEarthKAMを入り口として、環境問題に対する関心が低い人にも興味を持ってもらえるように工夫していきます。  
一、私たちは、宇宙から撮影した「証拠写真」を分析し、そこから発見した問題を解決するために行動していきます。また「宇宙から見つめる視点」の重要性についてチーム内で話し合い、その普及に努めます。



関西学院千里国際中等部・高等部  
SGH

足立 晴香さん(3年生)

私は、小学校6年生から中学3年生の頃まで、ドイツの首都ベルリンに約3年半滞在していました。ドイツは世界でも有名な環境先進国で、滞在を通して、私は様々な良い刺激を無意識に受けていました。帰国してこの学校に編入した私は多種多様な活動を積極的に行ってきました。その中で自分が環境問題に興味があり、動物や自然がもともと大好きだったこともあり、私は絶滅危惧種問題に特に興味があることに気が付きました。ですから将来はその問題を解決するために働きたいと考えています。

SDGs宣言

環境問題、特に絶滅危惧種問題を解決するための活動に携わるのが将来の夢です。  
SDGs13,14,15,LOVE



兵庫県立神戸商業高等学校  
理科研究部

本山 将也さん(2年生) 森光 春平さん(2年生)  
宗拓 久斗さん(1年生) 西上 一成さん(1年生)

ごみをひとつでも多く減らすために、清掃活動を続けます。そして、さまざまな場所で清掃活動から得た漂着ごみの分析データを発表し、できるだけ多くの人に海のゴミ問題について知ってもらう活動をします。

SDGs宣言

きれいな海を守るため、活動を続けます。





協栄産業株式会社

茨城県立笠間高等学校



研修後、協栄産業古澤社長と記念撮影

## 『分ければ資源、混ぜればゴミ』知っていますか？ PETボトルリサイクル！

日本有数のPETボトルリサイクル技術を誇る協栄産業グループ。今回、茨城県立笠間高等学校のみなさんが、協栄産業グループの最新工場＝ジャパンテック株式会社・東日本PETボトルMRセンターを訪問し、高校生環境研修を実施しました。高校生にとって最も身近な飲料容器PETボトルのリサイクルを知ることで、限りある資源を次世代につなげるため、今の私たちに何ができるかを学ぶことができました。

### 海外でリサイクルされていた日本の使用済みPETボトル…しかし

学生服やランドセル。「リサイクルの優等生」として様々な製品に生まれ変わるPETボトルですが、実は日本で回収されたボトルの約6割が海外に輸出され※、とりわけ繊維産業の盛んな中国でポリエステル繊維に生まれ変わってきました。ところが2017年、中国政府は一部の生活系資源ゴミが汚れたまま届けられ、環境汚染を引き起こしていると発表。2018年から使用済みPETボトルの輸入を停止しました。このため日本は今、行き場を失った大量のPETボトルをリサイクルしなければならない状況に直面しています。

※財務省貿易統計の2016年データを元に算出

### 日本初！ PETボトルが再びPETボトルに

2011年、協栄産業グループはPETボトルを再びPETボトルに戻す「ボトルtoボトル」リサイクルを日本で初めて実現しました。その翌年には世界初のリサイクル樹脂100%の透明ボトルが登場し※1、ボトルを作る際に新たな石油資源を一切使う必要がない「究極の資源循環」を実現しました。またリサイクル樹脂は石油から作った樹脂と比較し、63%以上のCO<sub>2</sub>排出を削減できることが分かっており※2、こうした優れた環境効果から、国内に溢れるPETボトルの有効活用の担い手として、「ボトルtoボトル」は大きな期待を集めています。

※1 メカニカル手法では同社が世界初 ※2 同社のデータを元に三菱UFJリサーチ&コンサルティングが算定



再生原料を使って作られた様々なPETボトル製品

### みなさんにもできること

資源のない日本ですがPETボトルという貴重な資源を国内循環することで、地下資源の利用抑制と温暖化防止に繋がります。飲み終わった後にラベルを取って中を洗うことで、その後に生まれるリサイクル樹脂の品質が向上し、再びPETボトルに生まれ変わることができます。是非協力を続けて頂き、地球の未来を明るくしましょう。



工場内視察（研修風景）



選別工程視察（研修風景）



再生原料を使って作られたサッカーユニフォームと学生服

#### 茨城県立笠間高等学校

#### 感想

##### 勝山 真衣さん(1年)

今回の工場見学を通して、環境やリサイクルのことを詳しく知ることができました。また最新のリサイクル技術を間近に見ることができ、この貴重な体験を大切にしていきたいと思いました。

##### 鈴木 紗菜さん(1年)

PETボトルをリサイクルすることで私たちの身近な生活品になっていることを知り、大変驚きました。私はあまりリサイクルに興味がなかったので、これを機にリサイクルを意識して生活していきたいと思いました。

##### 石井 麻里奈さん(1年)

普段見ることができないところを見ることができ、有意義な研修になりました。また改めてPETボトルがすごいと感心しました。PETボトルをリサイクルすることで、その分石油を使わずにすみ、世界を救っていることがよくわかりました。



MS&AD 三井住友海上

## 三井住友海上火災保険株式会社

### 獨協中学・高等学校

緑のネットワーク委員会



獨協中学・高等学校 緑のネットワーク委員会のみなさん

## 三井住友海上火災 駿河台本社ビルで環境と減災への取組みを学ぶ!

### 緑化に取り組む

三井住友海上が本社である駿河台で緑化に取り組み始めたのは1984年、今から30年以上も前。屋上庭園を備え、敷地割合が4割を超える緑化は画期的なことでした。ではなぜ取り組んだのか。それは地域のみなさまからの「まちに緑を増やしてほしい」という声に応えるためでした。

### 駿河台の緑地

1984年の駿河台ビル竣工当時から、都心の本社ビルのあり方として、「周辺環境との調和」を理念の一つとして掲げ、既存樹の活用や高木の植栽に耐えられる構造を供えた屋上庭園を築造しました。企業緑化取組の先駆けとして、また生物多様性に配慮した緑化として外部からも高い評価をいただいています。

### 蓄雨の取組みとビルの水循環

#### 1) 蓄雨取組み

- ・「三井住友海上駿河台ビル」本社ビルとして1984年に竣工
- ・「雨水の有効活用を」という当時社長のアイデアから、地下に雨水槽を設置
- ・3500㎡という巨大な「蓄雨」が可能に

#### 2) ビルの水循環

- ・雑排水、厨房排水を複数の設備で中水処理
- ・トイレの洗浄水、本館前庭庭園の散水として再利用
- ・貯水槽で貯めた雨水についても過処理をして上記目的で再利用

#### 3) 蓄雨による減災効果

- ・ゲリラ豪雨等短時間に大量の雨が降る際の下水道の負担を減らし、内水氾濫のリスクを低減する効果
- ・台風等事前に大雨が予測される際に雨水槽の水を事前に放出することで、下水道の負荷を軽減



ECOM駿河台 研修風景



三井住友海上 ECOM駿河台



駿河台の緑地(屋上庭園全景)

### 獨協中学・高等学校 緑のネットワーク委員会

### 感想

#### 吉田和貴さん(獨協高校3年)

この度は、本社ビルやECOM駿河台の活動について教えていただきありがとうございます。御社はいち早く環境というものに目を向け緑化などの活動を行い、地域の小学生へ田圃を貸出すなど未来の社会を作っていく子供達に環境を意識してもらい、地域に密着した様々な活動をしていました。この活動は自分たちにも通じる場所がありました。まだまだ自分たちは未熟です。今回、会えたのをきっかけに繋がりをもち、そして、様々なことを吸収していきたいなと思いました。



#### 大久保 誠也さん(獨協高校2年)

御社ビル屋上やECOM駿河台の環境に配慮した設備を見学することで多くの人に自然環境を身近に感じてもらうための工夫を学ぶことができました。私たちが最近活動を進めている環境ファシリテーター活動をより充実させていくための今後のヒントを得ることができました。今回参加した私たちの一人一人に活動の可能性と勇気を今回の機会を与えていただきました。普段、外部との関わり方があまりない委員会ですが今回の体験はとて貴重なものになりました。ありがとうございました。



#### 野々村 美微さん(獨協中学3年)

僕らの委員会「緑のネットワーク委員会」は緑を繋ぐ取り組みをしてきました。名前もそれに由来します。このネットワークというのは緑と緑、そして緑と人を繋ぐことなどを意味しています。これが環境の考え方なのだと思います。御社を訪れてこの考えは確固たるものとなりました。また人と人が繋がればもっと環境を良くしていけると思いました。これからも僕たちはどんどん活動を広げたいと思っていますので、よろしくお願いします。



### 「緑のネットワーク委員会」の紹介

僕達「緑のネットワーク委員会」は「21世紀を生きていくためには、他の生き物との共存共栄が必要である。」という理念をもとに活動をしています。主な活動内容は、屋上緑化、箱ビオトープの設置、そしてそれを通じた地域との交流です。日々の活動では、屋上緑化のために屋上の掃除や手入れ、文化祭等の発表に向けた植物の成長測定や考察、箱ビオトープのメンテナンスなどを行っています。屋上ではゴーヤ、ナス、ピーマン、トマト、アケビ、ブドウ、パッションフルーツ、メロンなどの作物を育てています。地域交流としては、持ち運び可能なビオトープ(箱ビオトープ)を小学校に持って行って設置し、それにまつわるメダカや生態系についての授業も子供たちに行っています。さらに屋上の野菜が収穫の時期を迎えた時には近所の小学校の子供達を呼んで収穫の楽しさを味わってもらっています。小学生から家でも育ててみたいとかすごく美味しいなど言われた時、僕らもやっていたよかったと思う瞬間でもあります。

# トラックを走らせる限り、 CO<sub>2</sub>排出量削減は最大のテーマです。



## SGホールディングス株式会社



佐川急便と日本貨物鉄道の共同開発による電車型特急コンテナ列車「スーパーレールカーゴ」

SGホールディングス株式会社は、佐川急便を中核とした総合物流企業グループ全体の経営戦略や管理などの業務を担う会社。日本の物流業界のリーディングカンパニーとして積極的な環境負荷低減策を展開しています。

URL

<http://www.sg-hldgs.co.jp/>



環境対応車。今後はさらに環境負荷低減効果の高い自動車を導入していく

SGホールディングスグループ(以下、SGH)の事業の中核は「物流」、つまりモノを運ぶことです。

トラックや飛行機を使って運ぶため、常にCO<sub>2</sub>の排出という問題が伴います。

いかにして物流における環境負荷を減らしていくか・・・

SGHは、配送システム全体でのCO<sub>2</sub>の排出量削減に取り組んでいます。

### ◇佐川急便のトラック

早くから環境対応車の導入を進め、最近ではより環境負荷を低減させるハイブリットトラックや電気自動車も導入しています。

### ◇物流の効率化への取り組み

商品をSGHの中継センターや営業所に集約して保管・物流加工などを行い、一元管理することで、各工程間のトラック輸送を省き、トラックの台数や運行時間を大幅に抑える取り組み。輸送フローの効率化を図ることにより、環境負荷の低減につながっています。

### ◇モーダルシフト

トラックによる貨物輸送を、地球に優しく、大量輸送が可能な鉄道や船舶に転換していくことです。電車型特急コンテナ列車「スーパーレールカーゴ」による宅配便輸送では、東京/大阪間を毎日深夜に上下1便ずつ運行。1便の合計積載量は10トントラック28台分に匹敵するため、CO<sub>2</sub>の大幅削減の実現につながっています。

### ◇環境問題と地域の課題の両方を解決

2017年には旭川市のタクシー会社との提携。乗合タクシーの空いている時間帯に、配達業務を担ってもらおうという取り組みです。輸送トラックの台数削減、地域の交通インフラの維持、輸送にかかる労働力確保といった問題を同時に解決できる新たなソリューションとして注目を集めています。

### ◇環境教育への取り組み

自社事業として子どもを対象にしたエコ絵画コンクールや、自社で保有する森林を利用した自然とのふれあい体験会、稲作体験会を実施するなど、次世代を担う子どもたちへの環境教育事業にも積極的です。

## SGホールディングスの環境教育

### 写真左) 稲作体験

子どもたちに自然の恵みや食物の大切さ、水田が育む豊かな生態系を知ってもらうために稲作体験を実施

### 写真右) 自然体験

自社で保有・管理する森林での散策や間伐体験、間伐材を使った箸づくりなどの自然体験学習には、年間約500人の参加者が訪れる



SGホールディングス株式会社は、ユースの環境活動を応援しています。

# 地域と世界を繋ぐESD推進のためのネットワーク ESDプロジェクト

国連大学サステナビリティ高等研究所 シニア・プログラム・アソシエイト **鈴木 郁乃**

国連大学サステナビリティ高等研究所ESDプロジェクトでは、環境省の支援のもと、持続可能な開発のための教育(ESD)の推進のため、持続可能な開発のための教育に関する地域拠点(RCE)とアジア太平洋環境大学院ネットワーク(ProSPER.Net)という2つのイニシアチブを通じて、ESD推進のための人材育成や、パートナーシップを通じた地域課題の解決に向けた研究活動、ネットワーク構築など、多岐にわたる活動を実施しています。

## RCE – 持続可能な開発のための教育に関する地域拠点

RCEは、地域社会でESDに関わる実践を行う、分野横断的な団体のネットワークです。2018年2月現在、世界には164のRCEがあり、各RCEに研究機関や大学、NGO、民間企業や各種学校、地方自治体など、多岐にわたる団体が参加し、多くの若者もRCEの一員として様々な地域課題に取り組んでいます。日本には現在、RCE北海道道央圏、仙台広域圏RCE、RCE横浜、RCE中部、RCE兵庫-神戸、RCE岡山、RCE北九州の7つのRCEがあり、それぞれの地域で環境学習や政策提言、交流事業などのESDに関する活動を実施しています。RCEの世界的ネットワークは、「持続可能な開発に関する世界的な学びの場」を構築し、生物多様性、伝統知、気候変動、災害リスクの軽減、持続可能な消費と生産、若者、高等教育、教員養成など、持続可能性に関する重要課題における連携を支援しています。RCEネットワークの活動の一環として定期的に開催される、RCE地域会合やRCE世界会議では、同様の課題に取り組むRCEが集まり、課題解決に向けた地域横断的な議論や各RCEの経験の共有、RCE間の協力関係の構築などを行っています。また近年では、RCEに関わる20代～30代の若者を中心に、異なる国々のRCEをオンラインで繋いだバーチャル会議も開催されています。こうしたRCEの取り組みは、2015年9月に合意された国連持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けた有効な活動プラットフォームとしても注目されています。

## ProSPER.Net – アジア太平洋環境大学院ネットワーク

ProSPER.Netはアジア太平洋地域におけるサステナビリティに関わる人材の育成に向けた、大学・研究機関のネットワークです。2018年2月現在、アジア太平洋地域の40の大学院と教育機関が加盟しており、日本では北海道大学、岩手大学、東北大学、宮城教育大学、信州大学、東京大学、立教大学、法政大学、慶応義塾大学、横浜国立大学、中部大学、名古屋大学、岡山大学の13大学が加盟しています。ProSPER.NetではESDの実践に関わる若手実務者の能力開発のためのリーダーシップ・プログラムや、サステナビリティ関連の研究に携わる大学院生を対象とした若手研究者スクールなどの人材育成プログラム、メンバー大学による共同研究プロジェクト、メンバー大学間の人材交流などを実施しています。

ESDプロジェクトでは、教育をSDGsの全てのゴールの達成に欠かせない大切な要素と捉え、RCEやProSPER.Netを中心とした活動に取り組んでいます。それぞれのネットワークの詳細については、ウェブサイトをご覧ください。



2017年夏にタイで開催されたProSPER.Netリーダーシップ・プログラムにはアジア太平洋地域でESDの実践に取り組む参加者が集まりました。



2017年12月に岡山でSDGsの達成に向けたRCE第一回世界会議が開催されました。(写真: RCE 岡山/岡山大学)



岡山で開催された会議では、世界中から集まったRCEメンバーがフィールドトリップに参加しました。

RCEネットワーク・ポータルサイト

<https://www.rcenetwork.org/portal/>

ProSPER.Netウェブサイト

<http://prospernet.ias.unu.edu/>

# 全国ユース環境ネットワーク

## 環境省からのお知らせ



### ESD 活動支援センター

Education for Sustainable Development

ESD (Education for Sustainable Development)  
= 持続可能な開発のための教育

ESD 活動支援センター(全国・地方)は、地域 ESD 活動推進拠点と共に ESD 推進ネットワークを形成し、連携して ESD を支援します。

ESD 推進ネットワークは、持続可能な社会の実現に向け、ESD に関わるマルチステークホルダーが、地域における取り組みを核としつつ、様々なレベルで分野横断的に協働・連携して ESD を推進することを目的としています。全国センターは、地方センターとの連携・協力のもと、このネットワーク形成に取り組みます。ぜひホームページをご覧ください。

ESD 活動支援センターは、全国ユース環境活動発表大会を応援しています。

URL: <http://esdcenter.jp/>

## 環境再生保全機構からのお知らせ

地球環境基金は NGO・NPO の環境保全活動を支援しています。

### 不要になった本で環境保全に貢献しませんか？



「本 de 寄付」は、本の買取金額が寄付金となり、NGO・NPO の環境保全活動に役立てられます。

#### ① 不要になった本を段ボール箱へ

(送れるもの) 書籍・コミック・CD・DVD・ゲームソフトなど

#### ② 「本 de 寄付」に申し込む

ホームページ、TEL、FAX からお申込み下さい。

#### ③ 送料無料でお引き取り

ご指定の日時に、配送業者が無料で集荷に伺います。

#### ④ 買取金額が寄付される

ご寄付額を記載したお礼状を送付します。

<申込み先>

URL <http://www.erca.go.jp/jfgedonationraisehondekifuindex.html>

TEL 044-520-9606 FAX 044-520-2192

本 de 寄付 検索

### Instagram はじめました!



@erca\_kikin

ユース事業や助成団体の活動地域の美しい風景などをお伝えします。



### Twitter こちらもよろしく!



@ERCA\_kikin

イベント情報や講座・研修の案内、助成団体の活動などをお伝えします。



事務局だより

## 第3回 全国ユース環境活動発表大会を終えて

全国ユース環境ネットワーク事務局です。みなさまのご協力により、第3回 全国ユース環境活動発表大会を終えることができました。出場高校のみなさま、ご応募いただいたみなさま、そして関係者のみなさま、本当にありがとうございました。

全国大会では、5つの高校に環境大臣賞をはじめとする特別な賞、7つの高校には優秀賞が贈られました。

ここでは、環境大臣賞・環境再生保全機構理事長賞を受賞した2校、そして出場高校みなさんへの事務局の感想をご紹介します。

### 【環境大臣賞】

#### 岩手県立遠野緑峰高等学校

発表では、ポップでつくったとてもきれいなランプシェードをお披露目してくれました。今後はもっと多くの場所で、ポップ和紙を目にする機会があるといいですね。本当におめでとうございませう。



### 【環境再生保全機構理事長賞】

#### 愛知県立佐屋高等学校

アヒルを使ったとてもかわいい農法で、会場も癒やされていました。みんなで企画した保湿クリームは、ぜひ佐屋高校の取組とともに全国に広まるといいですね。これからも頑張ってください。



### <大会概要>

日程 2018年2月3日(土)、4日(日)

会場 国連大学 ウタント国際会議場

主催 全国ユース環境活動発表大会実行委員会

環境省/独立行政法人環境再生保全機構/国連大学サステナビリティ高等研究所

協力 環境省地方環境パートナーシップオフィス(EPO)/地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)

ESD活動支援センター/全国大学生環境活動コンテスト実行委員会

協賛 キリン株式会社/協栄産業株式会社/SGホールディングス株式会社/三井住友海上火災保険株式会社



すてきな発表をありがとうございました。活動もさることながら、発表でも様々な工夫があり、12高校すべてにおめでとうと言いたいです。来年も皆様とお会いできることを、本当に楽しみにしています。



KIRIN

KYOEI

SGH

MS&AD

三井住友海上